

古來の砂鐵製鍊法

(たゝら吹製鐵法)

東京帝大名譽教授
工學博士

俵 國 一 編

菊判 350 頁
挿圖 140 種

定價 2 圓 送料 14 錢

我が鑛業冶金界に捧ぐる特殊業績 本邦古來の砂鐵製鍊法の科學的究明

砂鐵を原料とする我國古來の製鍊法、所謂「たゝら吹製鐵法」は現在全くその跡を絶つたが往古より明治初年まで行はれて本邦所要の鐵鋼類の全部を供給せしのみならず、製鐵原料として砂鐵のみを使用せしこと、製鐵爐 送風裝置の構造及其の製品等いづれも世界に於ける製鐵技術上獨自の地歩を占めたものであつて、本方法の實地作業を調査し、之を記錄に止むる事は獨り本邦製鐵史上の重要事たるに止らず、斯法に依る製品が日本刀の如き優秀の兵器の原料たりしを以て、現代冶金學上より見るも等閑に附し得ざる喫急事である。本書は「たゝら吹」に關する二報告その他を編纂せるもので、一は俵博士が明治三十一、二年頃、當時現存せし廣島、鳥取、島根三縣下に於ける砂鐵製鍊所を實地踏査せられたる報告であつて、今回始めてその全般が公にせられるものである。他は天明四年下原重仲の著せる「鐵山秘書」の寫字本八卷の復刻であつて、古來工藝技術は多く一家相傳の方法として祕密に附し來れるを以て之に關する著述の殘存せるもの極めて尠く、約百數十年前の製鐵法を詳細に記述せる本書の如きは最も貴重希有の文献である。この兩報告を觀る時は相距ること百十數年、當時の本邦砂鐵製鍊法を比較してその進歩の跡を辿り得べく、且つ我國獨自の製鍊法の全貌を窺知する事が出来る。これ江湖の御一讀を勸奨する所以である。

發賣所 東京日本橋通

大 神 京 名
阪 戶 都 古
屋

丸善株式會社

横 福 仙 札 京
濱 岡 臺 幌 城

東京—神田・三田・早稻田・丸ビル